

実践倫理

“とりもどそう日本人の心を” 大和魂

俳優・武道家

藤 岡 弘、

「武士道精神」を熱く語る

野 木 大 義

はじめに

とりもどそう日本人の心を

講演趣旨

現在の日本は経済不況に苦しんでいます、それでも世界第二位の経済大国であり、世界各国にODAとして巨額の資金を提供し、さらに国連への負担金もトップクラスであり、世界平和と発展に大きく寄与しています。しかし、それらの貢献度に比べて、国際社会に於ける日本の評価は残念ながら低いと言わざるを得ません。

有史以前から数千年の歴史と伝統を有する日本の文化は、各分野に於いて発展し、特に江戸時代から明治維新にかけては世界に類例を見ない戦乱のない平和で高度な文化が開花していたのです。それ故に、開国により明治維新を成し遂げ、西洋文明を受け入れ、世界に通用する近代国家となり得たのです。

しかるに、昭和二十年の敗戦後、日本はそれまでの日本人としての指導理念や道德規範が全て否定され、日本の過去は全て間違っていたのだという「自己否定」を日本自身がしてしまったのです。

このため、教科書問題、従軍慰安婦問題、靖国神社問題、拉致事件、瀋陽事件、イラク派遣問題、さらに教育問題等々の日本の根幹に関わる事件や問題が続々と発生していく中で、私たち日本人は、日本としての確固とした方針が取れず、右往左往する情けない状態になっているのが現状なのです。

何かおかしい。

本来の日本は、本来の日本人はどこへ行ってしまったのか。

私達日本人は、何を忘れ、何を失ってしまったのか。

私達は、今、このテーマを真剣に考えなければならぬ時に来ているのです。今、失ったものを取り戻さなければ失われたままに

なり、永遠に忘れ、私達の国である日本もどこかに流され、やがては崩壊して行くことでありましょう。私達は、日本をそのようにしてはならないと強く思います。

まだ遅くはありません。

今こそ、忘れ、失った「日本人の心」を思い出し、取り戻さなければいけないのです。皆さんと一緒に、日本人の心を取り戻そうではありませんか。

○司会

ただいまより武徳（武士道）振興協議会主催「取り戻そう 日本人の心」をテーマとして藤岡弘、先生によります特別講演会を開会いたします。

早速ですが、この会の主催者を代表いたしました、国士舘大学教授野木將典先生より開会のあいさつをお願いいたします。

○野木將典（国士舘大学教授）

皆さんこんばんは。年の瀬の大変お忙しい中、皆様に突然のお願いをしてしまいました。公私ご多忙の中、ご出席いただきまして、この会を主催者を代表いたしました、大変ありがとうございます。感謝申し上げます。

タイトルにあります「取り戻そう 日本人の心」。特に今、この言葉が必要ではないでしょうか。それにはこの言葉を実践する俳優で武道家の藤岡弘、先生にお話をいただくということ、この企画を立てました。世話人の方々、そして多数の方からご協賛をいただき、この会を開くことができましたことを厚く御礼申し上げます。

それでは、世話人の方々をご紹介しますいただきます。

代表世話人の小久保晴行先生を始め、中津川博郷先生、前島信次郎先生、久保田光信先生、世話人の田口浩先生、深作勇先生、柴崎利夫先生、梅沢勇先生、白子英城先生、よろしくお願いいたします。

○小久保晴行（江戸川区文化会会長）

皆さんこんばんは。すっかり師走の冷たい風が吹いております。きょうは幾らか暖かいようですが、皆様方、お忙しいところ、大勢の方においでいただきましてありがとうございます。

ただいまから「取り戻そう日本人の心」ということで藤岡弘、先生のお話を伺おうということでございます。

この会につきましては、武道家として日本の武道を奨励、推進のためにお骨折りをいただいている国士舘大学の教授野木先生が、ご尽力をいただきました。

藤岡弘、先生は、仮面ライダー、特捜最前線、姿三四郎とか、主にテレビ、映画を中心によく知られる方でございます。しかし、何うところによりますと、若い頃からボランティア活動を非常によくおやりになりまして、各地の障害者施設をお回りになったり、

日本国内だけではなくて、世界的にご奉仕をされている方であると伺っております。

今、我が国は非常に物が豊かになりました。大変すばらしい施設ができましたが、内容的には非常に難しい岐路に立っていると思います。世界的に転換期に立っているのではないだろうかというふうに思います。

夕べも大変な大事件が新聞をにぎわしまして、今朝は休刊日で朝刊がなかったものですから、夕刊に物凄い字で書いてあります。これも世界的な転換期の一つではないだろうかと思うわけでございます。

それで、藤岡弘、先生は、そういう中で宗教とか民族とか文化というものを越えて共存共栄、地球人としての一つの指針を持つことが大事だと。それには日本の武士道が非常に大事である、そういう精神でこれからも生きていきたいということでございます。どうか先生の有意義なお話をお聞きたいだいて、また2部は懇親会もございますので、ご参加をいただきまして、きわめてよかったという時間をお過ごしくださいますようお願いをいたしたいと思えます。

代表世話人の一人といたしまして、これから衆議院議員の中津川先生、都議会議員の前島先生もお話になられますが、皆さん、有意義な時間をお過ごしくださいますようお願い申し上げます、一言ごあいさつにかえたいと思えます。

○中津川博郷（衆議院議員）

きょうは、野木先生のご尽力で日本の武士道精神を語るという大変有意義な会を催すことができました、心よりお喜び申し上げます。

実は、私の最も尊敬する台湾の李登輝前総統という方が「武士道」解題」という本を書きまして、小学館から出ておりますが、大変光栄なことに、私とその本の巻末の推薦文を書かせていただきました。よくお会いするんですが、日本人以上に日本人なんです。昔はああいとお父さんやおじさんがたくさんいたと思うんですけども、今いなくなりましたね。何でもアメリカ。何でも西洋のスタイルがいい。見てください、日本の銀行。この間足利銀行がつぶれましたね。今私、経済、金融の問題をやっていますから。うちは〇〇銀行とやっているんだけど大丈夫だろうか。アメリカナイズされたシステムが導入されて、どんどん地方銀行がつぶれていく。日本の経済もそうであります。

経済もそうですが、教育の世界でも同じですね。今、日本人が日本人の誇り、日本人の精神を忘れている中で、日本人のすべて

の人、とりわけ政治家、あるいはリーダーと言われる人たちが、まず武士道の精神に戻ってすべてやっていけば、かなりのことが解決できるのではないだろうかというふうに思っているところであります。

それともう一つ、きょうは野木先生のいわばお披露目の会といえますか、大変実行力のある先生でありまして、こういう会をつくられたことに心から敬意を表するわけですが、私も十八年前に、江戸川区から文化と教育を語る会ということで、当時文化勲章を受章しました弘中先生を、当時こういうホールがありませんでしたから、こういうニューオークラで、あの当時、ポスターを貼って、百五十人か二百人ぐらい集まっていたいただきました。いわばそれが私の政治活動、教育活動、町おこし活動の原点だったかもしれません。

野木先生も大変地道な努力をされて、きょうはいきなりホームランを狙う大きな会でありますけれども、どうぞいきなりホームランを狙わないで、こういう会を継続されて、そして野木イズムというもの、これが区民の皆さんたちに浸透していきますことを祈念申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。

○前島信次郎（都議会議員）

きょうは藤岡弘、さんのすばらしい講演があるということで、私もお招きをいただきまして、実行委員の世話人の一人として、皆様方と一緒に楽しみにしております。

ここに掲げられているテーマの「日本人の心」。先ほども友情出演で沖縄の方の踊りを拝見いたしましたけれども、あの衣装、そして音楽、まさに私たち日本人の原点を見たような気がしてなりません。大変すばらしい踊りでありました。

また、藤岡弘、さんにつきましては、テレビ等で有名ではありますけれども、ボランティアとして日本人がこれからどうしなければいけないのかというようなテーマでお話されると思っております。

最近はやっている映画の中で「ラスト・サムライ」というアメリカでつくった映画でありますけれども、中身はまさにここ言われている武士道の精神をうたっている映画でございます。今日日本人が求めている一つの心をもう一回取り戻そうじゃないかという映画でございます。

今、武士道、そして日本人の心というものが大切なのかというふうに言われておりますけれども、私たちは日本人として、外国

のいろいろな文化を取り入れながら、失われかけている日本人の文化というものをもう一回お互いに実践をして、一人一人が生活の中に生かしていかなければいけないのではないかなというふうに思います。

今、東京都の方でもいろいろと新しい試みをしておりますが、特に教育の問題で一番大切なのは、学校に行ったときの先生と生徒の関係だけではなくて、家庭におけるしつけ、イロハのイの字から始めなければいけないだろうということで、「心の東京革命」ということを打ち出してやっている次第でございます。

きょうはそうした点で講演をお聞きになって、お一人お一人が日本人の心というものを取り戻していきたいと思っております。

きょうは江戸川区の中で、こうした催しを開いていただきましたことを心から感謝と御礼を申し上げ、ごあいさつにかえさせていただきます。

○白子英城（株式会社スィックプラス代表取締役会長）

ご紹介いただきました白子でございます。

本日のテーマは「取り戻そう 日本人の心」です。これは野木先生の勉強会で、こういう講演会をやるうではないかという話になりまして、何をテーマにしようかと話し合いました。その結果、日本人の心を取り戻そうじゃないかということがテーマになりました。そして、こういう題名がついたわけです。

それでは「取り戻そう」ということはどういうことでしょうか。取り戻そうというからには、何かを取り戻さなくちゃならない、忘れちゃったもの、なくしてしまったもの、そういうものがあるわけですね。それを取り戻そうというわけです。

そのなくしてしまったもの、忘れてしまったものは何だろう。これは日本人の心である。我々は日本人の心をなくしてしまったようですね。もっと言えば、なくさせられてしまったんです。今日は短い時間なので、そこまではお話できないんですが、我々はなくさせられてしまったんです。そしてそれがそのまま戦後ずっと現在まで続いているんです。そして、今日、日本の根幹を揺るがすようないろんな問題が起こっております。教科書問題、従軍慰安婦の問題、拉致の問題、イラクの派遣の問題。こういった日本の根幹を揺るがすような問題が続々と起こっている中で、私たち日本人はどう判断しているでしょうか。右往左往して、有効な解決手段もいまだに見出せないでいるというような状態でございます。

それでは日本はもともそんな情けない国なんですか。とんでもない。日本という国は武士道の精神によって明治維新を成し遂げて、日清戦争に勝ち、日露戦争に勝ち、そして一九一九年（大正八年）第一次世界大戦に参加し、日本は戦勝国に一員としてベルサイユ条約に参加して、そして世界の五大国の一員に列せられたのであります。

現在、サミットとかG7、G8、G9とか言っておりますが、それは現在の話でございまして、なんと大正八年に、日本は既に世界の五大国の一つに列せられているというすごい国、素晴らしい国になっていたんです。

戦争に勝ったから偉い国ではなく、国民の力を含めた総合力、即ち国力があったからなのです。

ところが、日本はやりすぎました。日本はさきの大戦で東京が焼け野原になりました。そしてその中からさらにもう一度よみがえって、現在、アメリカに次ぐ第二位の経済大国であり、そしてまた、国連の拠出金も、アメリカに次いで第二位の巨額な資金を提供しております。さらに言えばODA、これによって開発途上国、援助を必要としている国のいろいろなことに関して資金を出しております。これも世界のトップクラスになっております。

このように、日本は、世界の平和、福祉に関与して、立派な行動をしているわけですが、日本はそれだけの尊敬を世界から得られているでしょうか。日本は嫌な国だ、悪い国だ、もっと謝れと突付かれ、蹴飛ばされているのが日本の実情であります。我々はこのような状態を許しておくことはいけないと強く思っております。

それには日本の基本的な心を取り戻す、そういったものを探し出して、本来の日本の姿を取り戻す、日本人の心を取り戻す、そういうことが今、本当に必要なのではないのでしょうか。まだ遅くないんです。これからまだいろいろなことが起こると思います。が、今、我々がこういうことを考えて、そして本来の日本人の姿、本来の日本人の心を取り戻そうと思うわけです。

では、日本人の心とは何でしょうか。これは一言では言えません。いろいろな切り口があります。

きょうは世界的にボランティアで活動し、また武道の実践家でもあり、俳優である藤岡弘、さんの「武士道の精神」というお話をお聞きすることになっております。本日、武士道の精神という切り口で日本人の心、忘れられた、どこかになくしてしまった日本人の心を考えて、そして、このテーマであります「取り戻そう日本人の心」、その心を取り戻す一つのヒントにしたいと願っております。

どうか皆さん、最後まで一生懸命お聞きになっていただきたいと思います。そして日本のことを考えましょう。

特別講演

現代に生きるサムライ

俳優・武道家

藤岡 弘、

「武士道精神」を語る

○藤岡弘（俳優・武道家）

こんにちは。未来を担う子供が前にいるとうれしいですね。

初めに、私の尊敬する野木先生ほか、多くの諸先輩にご招待をいただきましたことを心より御礼申し上げます。私、アフリカエチオピアの南部を三千キロにわたって、日々八時間から十二時間サバンナを走り、そして一ヶ月間にわたっての旅を終えて帰ってまいりましてから、まだ四日しか経っておりません。多少時差ぼけ等、体も危機感がまだとれておりませんが、そのような実体験直後の熱い内の講演、本当に感謝しております。私は今までに、世界七・八〇カ国を訪ねる機会を与えられましたが、今年も何カ国か訪問してまいりました。

来年一月二日の夜六時から一〇チャンネルにおきまして、このアフリカの旅、藤岡弘、探検隊の三時間スペシャルが放映されます。今、私と共に行了きました隊員が一人、四十度の熱で入院し、大変な状況もございますが、今回の隊員と現地スタッフのほとんどがマラリア、そして四人がサソリにやられ、ツエツエバエに刺され、そしてウイルスによる熱病で数日間うなされてまいりました。何人もの隊員が倒れながらもなんとか無事に旅を終えました。私の体の中にも、多分多くのウイルスが入り、今も体の中で戦っていると思います。

世界を回りますと、日本の未来に危機を感じ、憂いております。そういう中で日本は、この危機感のない、平和ぼけ、平和虫といえますか、まるで虫の目からしか物を見ていないような状況である。今はそういうような状況ではなくて、鷹の目、いや宇宙の目から見る、そういう視点が必要ではなからうかと感ずる次第でございます。

今は、一国平和主義はありません。ましてや、その国の責任というものを果たさなければならぬ。いまや全世界は一つとなつて、平和と自由と幸せを求めて、責任をとらなければならないということを、世界を回るたびに私は感じる次第ですが、今や国境も民族もイデオロギーも宗教もすべてを越えて、地球人として、そして全世界の幸せ、自由、平和のために、一人一人が目覚め、気づき、覚醒し、行動すべき時ではないでしょうか。自己中心的な自分の思いだけを満たすときではないということを感じながら、旅を終えてまいりました。

皇紀二六六三年、この長く尊い歴史を経て、今の日本はあるわけでございます。そして、それまでにはこの艱難辛苦を越え、自

己を犠牲にしながらも日本の国のため、世界のために散っていった人たちも多くいるわけでございます。どの国もどの民族も自由と平和と幸せを求めない人々はおりません。幸せは、ただ与えてもらえないものではありません。自らが勝ち取り、自らが責任をとり、そして自らが犠牲になってでも次なる子孫のためになるものを残していく、ということを行すべきであります。

そのようなことを国境を越えて考えていかなければいけない。もう心の国境も越え、己の頭の中の思考の国境も越えていく時代が始まっているわけです。本当に今は、日本、いや、全世界再生復活の大転換期ともいえると思います。今年だけでも十カ国を越えて旅をしました、どの国も、どの民族も、目覚めております。私は逆に、日本だけが目覚めていないのではないかと恐れております。今こそ、我々の民族の人間力、民族力が試され、真価が問われているのが日本でございます。経済第二の大国。第一の大国はアメリカ、第二の大国は日本、この日本は世界のために貢献すべき経済や多くの教育、技術、すべてを天からいただいたいると思うわけがあります。その責任とは、我々の国の子孫のためだけではなく、全世界のために我々が何をなすべきか、何を貢献するべきか、考える事。これからの一人一人の課題であろうかと思われまふ。私はボランティア活動を三十年やってまいりまして、一瞬のごとく滅びていく多くの国をこの目で確認しました。国が滅びたらどれほど悲惨なものをかを涙を流しながら体感し、体が打ち震えながら、民族の滅び行く姿を見てまいりました。そこには、悲しき婦女子や子供たち、老人、弱き民が見るも無残に朽ち果て、そして死にゆく姿を見せられました。一瞬です。地位も名誉も、金や物、財も、国がなくなれば民族の血まで絶やされ、そして終わっていくわけです。私は、日本民族が培ってきた、命をかけて守り続けてきた精神、心を守らなければならないと思うのです。日本の心こそ武士道精神なりということなせ言うかという、自己を犠牲にしながら、他のため、世界のため、種族のため、家族のため、民族のために命を捧げてきた人たちは、己を捨てた尊い思いやりと愛の精神を持っていらっしやいました。私は命より尊いものは愛であるということを知りました。他の民を生かすため、次なる子孫のため、私利私欲を捨て、己を捨てて、捧げてきた歴史。大化の改新を経て、また流れ打って押し寄せる元の大群に一步も退くことなく、立ち向かっていった武士たち。そして、他国が植民地化しようとして日本に押し寄せ、内乱を起こさせながら、日本を分割しようとしたあの明治維新。犠牲を伴いながら、無血開城という世界に類のない民族の大きな勝利を得、世界の列強に植民地化されず、自力で立ち上がった。そして、第二次世界大戦と数々の艱難辛苦を超えてまいりました。

この日本という国は、資源もなく、自給自足もできない。そしてこの日本はどこで爆発してもおかしくない地震列島でございます。この国の魅力は何か。人の心、人間力、民族力しかないです。人間が財産、人づくりです。それを知っていた我々民族の先人たちは、まさしく人間をつくることに命をかけてまいりました。それはどの家庭におきましても、家庭の教育の中で責任感、使命感、道義、道徳、信義、倫理を教え、人間はいかに生きるべきか、人間はどこから来て、何のために存在して、どこに行くべきだろうということを教え、論じました。武家、商家、農家や工家などのどの家庭においても家訓がございました。そして、次なる国を背負っていく、民族、一族を背負っていく、子供たちに命をかけて教え伝えてきた歴史があつたわけです。家族との絆、家族愛、民族愛、郷土愛、師弟愛、愛国心、愛を伝えてきた。それが先人たちの尊い贈り物だったんです。金や物、財、地位や名誉だけではありません。命をかけた子供に対する教えなのです。

私は六歳から父に武道を教わりました。「武士道精神を持って、どのような状況にも耐えよ。我慢すること、そして誇りを持つこと、恥を知ること、名誉を重んじること。分をわきまえること、足ることを知ること。思いやること、いたわること、慈しむこと、愛すること、奉仕すること、感謝すること、すべてに責任を取り命をかけよ」という精神をたたきこまれました。六歳です。無、ゼロです。無から学べ。「そしておまえは多くの先祖、何億、何千、何百の命懸けで生きてきた先祖の尊い大いなる愛によって、おまえは今存在し、生きているんだ。おまえが自分で生きているのではない。生かされてきたんだ。一人でも先祖の中に怠惰な先祖、命を粗末にし、生きていることを放棄した先祖がいたら、おまえはここには存在していないんだ。すべての先祖が命をかけて血を守り続けてきたおかげで、おまえが今存在しているんだ」ということを叩き込まれました。それはどの人も、どの民族も、この地球上に生きている一人一人が尊い命である。使命を持ってこの世に存在している。他人の子であろうと、この地球に生きている六十億の人々すべては、天から与えられた尊い使命を持った命であるということを教わりました。だから、相手を理解し、尊び、思いやり、いたわり、国境も民族もイデオロギーも宗教も全てを越えて、地球人として、大いなる愛を持って接することが使命であると。それが武士道精神であると。

武士道とはすなわち己が責任を持って、すべてを全うすることである。己の心を磨き、人間を磨き、精神を鍛え、魂を入魂する。そのような教えを受けてきた私としましては、昨今の現状は目に余るものがあります。そのような中で、今、世界は六十億、飢餓

人口八億、餓死が毎年千五百万人。千五百万人ということは一日四万人死んでいるわけでございます。東京ドームが五万五千人です。あの東京ドーム一杯分位の人々が一日に餓死しているんです。一日四万人ということは一分で二十八人死んでいるんです。死にたくて死んでいるんじゃないんです、自殺ではない。生きていくたくても、食べるものがなくて飢えて死んでいるんです。生きていきたいのに、生きることができないで飢えて死んでいく人たち。

今、日本は年間自殺者三万人です。この方達は何らかの事情で不幸にも自ら命を絶っている。いまや職を失った人たちが公園にたむろしております。こういう人たちはいっぱいおりますけど、飢えて死ぬ人はおりません。糖尿病の人もいると言われている。

今や地球上で、三食食べている民族は四分の一しかおりません。我々は三食食べている。三食どころか夜食も食べ、そしておやつも食べ、四食、五食など当たり前、まさしく経済大国というこの栄耀栄華の中にいる我々が、他国のそういう人々を犠牲にしながら成り立っており、世界を犠牲にして今の日本の繁栄があり、飽食さんまいの生活を送っているという事実を知らない。自己中心的な傲慢な考えで、他国の悲劇や民族の悲しみ、貧しさ、苦しみなど、そういうことは実感として感じられず、己さえよければいいという風潮である。自分の国民さえよければ、自分さえよければ、自分の家族さえよければという自己中心的な思いによってのみ生活がちな、無残で、情けない状況に陥っているわけです。

「武士道とは死ぬことと見つけたり」。まさしく己のためではありません。死ぬこと、命を捨ててもよいほどの価値ある死に方を見つかったりということなんです。逆を言えば「いかに生きるべきかを見つかったり」にもなります。己の私利私欲のためではございません。「よし、地球の六十億人を守り、六十億の人のためなら俺は命を捨ててもいい。己が責任をとる事で六十億の人々が助かるのであれば、己の命は天に捧げます。六十億の民を救ってもらえるのであれば、私は全責任をとって、すべての膿を背負って、腹を切って果てますから、どうぞ六十億の人々を助けてください。」これが武士道精神なんです。

武士道精神というのは、相手をあやめるものじゃない。人を殺すものじゃない。人を生かすために己が犠牲になる精神なんです。威をもって相手を制する。戦わずして勝つ方法を模索する。私は武道を二十数段持っておりますが、私に命をかけて戦うのであれば、あなたは私に勝つ自信があるか。ないんであればやめなさい。ならば、お互いに和合、調和をしながら平和を求め、話し合いませんか。戦って死ぬのはやめなさい。そういう精神、威を持って相手を制する。備えをもって憂いなし。戦わずして相手を屈服

させて、調和させて、平和を求める。和合する。まさしく大和民族、大和心、大和魂の大いなる和を持って、魂を持って、心を持って調和となすという民族なんです。これが神武天皇が建国されて以来、二六六三年、人間というものを一生懸命探求しながら、人間としての最も大事なあり方、理想的な生き方を説いてきた。すなわち、武士道とは。儒教、仏教、神道、禅道という四つの教えが源泉となって培われた、尊い血と汗の結晶の究極の教えなんです。人を非難して裁き、足を引き摺り下ろして悦に入っている人格も品格も気品も見えない自己陶醉のエリート型の人々の姿が最近特に眼につく昨今ですが、それとは全く別なのです。己の生き様をもって体現し、己が責任をとって、自らが捧げ物になる。天の祭物となるという精神なんです。己がない、無私の気持ち。命より尊いものは愛であるという大きな骨幹を知っている精神。公的に生きる、これが忘れさられ、捨てられてきた。私は父から叩き込まれ、これが当たり前だと思って過ごしてまいりました。ですから私は、自分の置かれた立場の中でできることをやらねばならないと思い、それを追求し、探求し、挑戦してきました。自己発見、自己挑戦、自己探求、自己反省、自己救済の旅になるように、そして、感動の旅、愛の発見の旅になるように、今も世界をまたにかけて、謙虚に己を見つめる探求の旅をしているわけです。かなり厳しく言っておりますが、短い時間の中で、どうか知っていただきたい。今こそ一人一人が目覚め、気づき、覚醒し、己がこの世界のため、また人類のために何をすべきかを考え、己の私欲を捨てて、未来のために責任を果たすべき個々であって頂きたいと思うわけでございます。

今や、自衛なき民族は滅び、使命感なき民族は滅び、愛なき民族、感動なき民族は滅び、感性なき民族は滅び、道義、道徳、倫理無き民族は滅びゆくといわれるがごとく、まさしく真価が問われているわけです。国が滅びたら、地位や名誉も消えていきます。金の価値もなくなります。戦いが起これば、血筋まで絶やされる事があります。例えば藤岡家であれば、血統が絶やされて、今まで何百、何千、何億という先祖が命をかけて守ってきた血筋が消えるんです。世界中でどれほどの民族の血が絶えて、家系が絶えたことでしょうか。皆さんはここに生きている。生きているんじゃない。生かされているんです。多くの先人達の犠牲によって生かされてきた。それを知るべきです。先人に感謝し、先祖に感謝し、おじいちゃん、おばあちゃんに感謝し、己を生んでくれた父、母に、愛の結晶である自分、それに対して感謝する。感謝、尊敬、思いやり、愛。これなくして民族の未来はありません。今やものすごいスピードで世界は揺れ動いています。数分のうちに情報は地球の裏側までも届き、世界を飛び交います。一番大

切な事は、人間として何のために存在しているか、人間としての永遠の価値とはどういうものか。生きる目的とは何でしょうか。その目的は幸せなんです。どの民族も自由と平和と幸せを求めているんです。幸せを破壊するもの。敢然と全民族がそれに立ち向かって、制し、そして、その者たちも全部愛し、許し、抱きしめていくような大いなる精神をもち、幸せというものがどういふものかを教えていく。それが武士道なんです。愛して、許して、調和と和合、そういうことを教えることのできる武士道精神。また、儒教精神という孔子の教えは、理想的な生き方とはこうであると教えました。世界の中で死に方の美学を教えたのは日本だけなんです。死生観があるんです。どうするべきか。それは裏返せばどう生きるべきかです。生き方を説き、死に方を説いたんです。じゃあ、死ぬときはどう死ぬべきか、私利私欲のために死ぬか。違う。私はこの死生観を持った民族こそが世界を救うことができると思うのです。世界のために自己を犠牲にしながら貢献し、尊敬しながら、そして、思いやりと愛と慈しみをもって奉仕し、感謝をもって実行していく民族。世界から尊ばれ、感謝され、永遠に歴史に名を刻まれる、そういう国民であってほしいと思うわけです。

人間は百年少々それ以上生きられません。世界六十億人のどの民族も百歳ちょっとしか生きられない。百年という期限付きの肉体というアパートを我々は借りて、いずれはその肉体を地に置いて、地上を去るわけです。そのとき何が持っていますか。地位も名誉も金、物、財も、何も持っていないかもしれません。持っていないのは、どう生きたかという生き様と思いつくだけ人を愛したかという心が喜ぶ感動などではないでしょうか。誇り高き民族として、何を残すべきか、何をなすべきか。一人一人の精神を込めた信義、大義、道義、道徳、倫理、大志。武士道が説いてきた人間としての道、生き方こそが大切なのです。己を捨て、私欲を捨てる。それが武士道でありますから、今、教育改革の中にぜひこの武道教育を入れて頂きたい。我々の先人達が残してくれた世界に通用する道徳を内包した武士道がどれだけの多くの民族を救っていくか。だから、世界の調整役として、世界の橋渡しとして、コーディネートできる力を持った民族はこの日本なのです。まさしく日本は世界を救うためにこれだけの経済を与えられ、これだけの技術、教育、知性をいただいたと思わなければならない。その使命がある。それが天命であろうと私は実感するわけです。

自由は愛の法則のもとに責任が伴い、一人一人の責任が伴うんです。母親としての責任、父親としての責任をもって、子供に命をかけて愛する。子供はどれだけ両親から愛され、社会から愛されたか、愛された分だけでしか、大きくなっても愛を返せないし、

与えられないんです。非難されて、虐待され、見捨てられたり、見放された子供は、必ず恨みを持ち、その恨みのゆえに、反逆するんです。それが今の時代に起きている事件なんです。親の責任である。社会の責任、またリーダーの責任です。先祖の思いを子供に對して伝えていない。おまえはお父さんとお母さんの愛の結晶であり、先祖が命をかけて血を守ってきたおかげで今のおまえがいる。おじいちゃん、おばあちゃんに感謝しなさい。おじいちゃん、おばあちゃんが生まれたのはひいおじいちゃん、ひいおばあちゃんのおかげ。ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃんのアとは、先祖代々、何百、何千、何億という先祖が命をかけておまえの血を守り続けてきたからこそ、おまえが存在しているんだという事を、なぜ家庭で教えないんでしょうか。偏差値だ、金だ、何が物だ、何が競争だ。人間はそれだけではない。自己中心主義では未来が無い。

なぜこう言うかというと、滅びゆく人たち、死にゆく子供たちをこの目で見てきたときに、なぜ子供を守り切れなく、どうして助けられなかったんだろう、という思いになった。たったコーヒー一杯分の金で尊い生命を失ってしまう子供達。抗生物質一個あれば生きる子供の、尊い命が消えて行く。私は何千何百のこういう状況を見てきた。できる事なら己の命を捧げてでもこの子供たちを助けたいと切実に思いました。そういう気持で私は旅を続けてきました。

今や世界は貧苦の中であえいでいる。日本だけの自己満足の為に日本がこんなに繁栄しているのではないと思うのです。

東京都で一日六千トンの生ゴミがパーティーや何かで捨てられていく。六千トンということは、飢餓にあえぐアジアの人々四百万人の一日分の胃袋を満たして、助けられるんです。皆さん方は、「これ、まずいよね。だめ、何これ。」「食べなくていいのよ。捨てなさい。」などという事もある。それは余りにも世界を知らな過ぎる。虫の目から物を見て、己を考える時ではないと思います。

父が私が幼き頃に、生前よく言っておりました。「これから日本は大変なことになるぞ。いいか、これからお父さんが仕込むから、心して行け。武士道精神を持って、どのような状況の中でも耐えしのぎなさい。お父さんはおまえに何の財産も与えられない。何の財産もない。しかしながら、誰にも奪われない財産を与えよう。生き方だ。生き方が財産だ。耐えること、我慢すること、愛すること、奉仕すること、感謝すること。分をわきまえること、足ることを知ること、恥を知ること、名誉を重んじること、どのような状況になっても耐えしので克服しながら、人のために生きていく、日本古来から伝わって来た最も大切な生き方を教えよう。国が滅びようと、人のために生きよ。人類のために生きよ。それが武士道精神だ。『武士道とは他のために死ぬことと見つけたり』。

その教訓が代々伝わってきた我が藤岡家の家訓だ。心して聞け」と。私はこの年になりまして、父の教えが正しかったことを確認しました。私の心の中にはだれにも奪われることのない財産が大きくなっておりました。私はそれが、生きるエネルギーとなって、力強いパワーが沸き起こり、目的、そういうものが明確になって、自分の意志が高まる原動力となっていることを実感しております。

現在、エチオピアでは、南だけで七十部族といわれております。その部族の中の七部族を回ってまいりました。そして、私はそこで人間の原点を見ました。エチオピアでは人類発祥の地と言われるぐらい、数千年前の当時のままの生き方、伝統、文化を歴史を受け継いでいる部族がいまだに生きています。これに出会ったときに、人間の原点を見たのです。なんだ、人間というのは何が大事かということを考えさせられたのです。まさしく原始的で、素朴な、自然と一体となっている生活の中で何が一番大事かということを知っているんです。それは人間として生きている、生かされているということ、これ以上の幸せと財産はないんだということを知っている部族たちだったのです。現代に生きる我々は便利さに酔っている。そういう飽食三昧の中で、我々は大事なものを見失っている。それを感じさせられた旅でした。

かつて、アインシュタイン師が日本講演の後、「この日の本の国がやがて世界から感謝されるときがやってくるだろう。」という言葉を残して日本を去っていったんです。あのノーベル賞学者のアインシュタイン師が、この世を去る時に残した言葉は、「神を知り、神の目的を知らなければ、私のやってきたことはすべて些細なことである」と言いました。人間として最も大事な価値を知って、この世を去っていった。ノーベル賞の名誉や価値やそんなものじゃなかった。我々は生きているんじゃない、生かされているんだという謙虚なる、大いなる畏敬の念を持った思い。大いなる意思によって、我々は生かされているんだという気持ちにたどり着いたんです。私も今は同感でございます。我々は決して生きているんじゃない。どの民族も百年後には入れ替わるわけです。いずれはこの世を去る。私は一人一人がどういう歴史を残すか、どういう価値を子孫に残すかが問われていて、考えさせられ、そして実行すべきときが今ではないかと思うわけです。

いずれ行末は民族大移動となるでしょう。恐らく国境もなくなるでしょう。ビザも必要なく、人種差別も人権問題もなくなるでしょう。人間の本質が問われてくる時代に入ります。まさしくこれからは一人一人が人間としての価値を見つめていく時代が始まっ

たんです。私は世界の旅をしながら、実感として感じ続けております。どうか、見えているのにあきらめてはならない。また、聞こえているのに、聞こえないような、そんな状況にならないで、この地球上にある飢餓と暴力と無知、人間のエゴを自分の心の中から脱却して、自分の良心、本心に問い掛ける精神を持たなければ、その個人も家族、企業や国も世界も崩壊していく。私はそう確信しております。今こそ、目覚めよ、気づけよ、覚醒せよ。と言いたいのです。

己の最大の敵は武器ではないんです。己の心にあるんです。最大の敵は己だと武士道は説いてきました。外からくる敵でもなんでもない。自己に勝たなければ、人にも勝てない。まず、最大の敵は己にあり、最大の味方も己にある。そういうことを説いてきた武士道が、これからは必ずや世界の目の目を見るときが来るでしょう。

私は「ラスト・サムライ」を寸暇を惜しんで見てまいりました。

私は見た後、よかったと思った。これで日本民族の生き方、民族力、人間力が改めて見直されるきっかけになるであろうと私は確信しました。経済大国のエコノミックアニマルと言われる民族ではない。世界の平和を、世界の幸せを、自由を心から命をかけて願っている民族である。世界の平和のために血を流しながらも、己が身を捨ててもなすべき貢献はしながら果たす威風堂々とした民族であることを知ってもらえるきっかけになったなと思っております。「ラスト・サムライ」じゃない。これからは最後のサムライではありません。メニー・サムライです。世界が多くのサムライを求めてやってきます。

私はアメリカ映画「ショーン・コッップ」の中で言わせてもらいました。

武士道ネバーギブアップ、武士道は絶対に根を上げない。武士道イズフォーエバー、武士道は永遠なり、と。日本民族にはこういう歴史を背負って、人のために、民族のために、人類のために命を捨てる事の出来るDNA遺伝子がこの体の中にあるんだと。自国を捨てて、死んでもいいという民族はいません。自分の子孫たちや未来を捨てる民族はいません。どの民族も次なる子孫のために自由と平和と幸福を贈りたいんです。

エチオピアの旅の中で、七部族の生きてきた歴史を感じました。私はこの中に人間の極地を見た思いがします。ドルゼ族、コンソ族、ムルシ族、スルマ族、アルボレ族、カロ族、ハマール族、このすべての部族の村を訪ねました。三千キロの旅の中で、何百キロも山を越え、谷を越え、ジャングルを越え、サバンナを越え、刺されると眠り病のごとく眠りこけていく恐ろしいツエツエバ

エに襲われ、マラリアの蚊に倒れ、下痢をしながら部族を訪ねました。そういう過酷な条件の中で生きている部族たち、何千年も生きて、血を残してきた部族たち。そこには何部族も血が途絶えた部族がいることを知りました。生き残るために部族対部族の争いもあった。生き残るためには、自分たちの食べる物がなくなると他の部族も襲って奪わなければならない。過酷な自然の中の状況も知りました。自衛なき民族は滅びるというのをこの目で見ました。また吸収された部族を見ながら、今でも必死になって、自分の家族や愛する者を守るために直立不動の姿勢をとって、夜も寝ないで危機センサーを働かせながら生きている部族たち。ここに人間の原点を見ました。愛とは、人生とは戦いなんです。愛を守ることが戦いだということ。これは人間の当然の本能である。愛する者のために自分の身を捧げながらすべてを投げ打つという気持ちは、どの民族もどの部族にも共通であることを教えられました。

武士道とは、すなわち己のために私欲を持ってなすべきではなく、他のため、世のため、世界の、また地球のために己を捨てても次なる子孫のために愛を持って責任をとっていくという生き方であるという事をどうぞ知ってください。私が幼き頃から父から伝えられた武士道とは、こういう事でした。核を二発も受けたこの国。しかしながら奇跡の復興、復活を遂げて、この日本の国は、今度はどのように対応するか、この民族がどのように挑戦していくかを、いまや世界が見ているわけがあります。それは国だけではありません。我々一人一人が見つめられているんです。我々が次なるこの国を背負っていく子供たちに何を贈り物にするか。金や名誉や地位、物、財や土地を贈り物にしたって、国が滅びたら、すべて終わるんです。子供たちに何を託し、ゆだね、残すかということを真剣に考えていただきたいと願うわけでございます。

私はこの国を憂いております。でも、今は目覚めのチャンスが来ているんです。ピンチこそチャンスと私の父は言っていました。今、日本は世界から感謝されるというチャンスをつかむときが来ているんです。日本はそれだけの力があるんです。世界を救うこともできる力、叡知、民族力、歴史的背景、伝統、文化を持っているんです。これをもう一回検証し直して頂きたい。そして、リーダーとしての立場にいる方々は、無関心、無感動、無気力な若者達に、又、自己中心的な自分の欲望や損得や利益の為だけに真剣な若者達に人間として何が大事か、何が重要であるか、という事を伝えて戴きたい。又、子供たちに親としての義務、責任を果たし、愛を持って他人の子供であろうとも愛を持って抱きしめながら、真実、真理を説いてあげてください。生きるということはど

うということか。子供たちは心から愛を求めている。物や金だけを与えてもだめだと思います。親の心からの愛を与えてあげて下さい。どうか命をかけて全人類のために尽くすことの出来る子供になるように。抱きしめながら、先祖の愛を、親の愛を伝えて下さい。愛された分だけ子供は後々に愛を返す事が出来る。親に否定され、非難され、社会から虐待され、ばかにされ、そして相手にされず、無視された子供達は、必ず恨みを持って反逆します。これはどの民族も同じであると思います。どんな子供にも、絶対に顔をそむけてはだめです。心眼で、目を直視して、子供の心の中の目と心と心のコミュニケーションをとりながら、愛し、どのようなものでも許してやる大きな器を持って接してください。武士道とは世界を救う大きな器なんです。天下をおさめようとするものは、まず家庭を治めよ。家庭を治めようとする者はまず己を治めよ。己が誠実に心正しく、清々であれ。誠意をもって心を磨き、己が治まれば家庭が治まり、社会、国は復興し、世界は平和になっていくという教えです。武士道はおごれし者を打ち砕き、破れし者を慈しみ、平和の道に達すること。他者への哀れみの心をもつ。これが武士道の真髄です。最も剛毅なる者は最も柔軟なる者なり。最も愛あるものは最も勇敢なる者なり。これが武士道精神の骨幹なんです。どうか武士道を間違ってとらえることなく、どのような民族にも、どのような国家にも、どのような国にも通用する人間としての精神と理想的な道徳が内包していることをどうぞわかっていただきたい。決して人を殺す、あやめるもの、そんな怖いものではありません。逆なのです、人を活かす道、愛して許して抱きしめよ、という事なのです。

今、アフリカという国は、平均寿命が五十歳です。五十歳というと日本がちょうど戦後の混乱期の食糧難のときは五十歳でした。そして、アフリカのマラウィという国は平均寿命四十歳ですよ。人生四十年、五十年で生きている民族もいる。我々は決してそういう人たちを見放してはだめですね。またそういうことも考えて、我々日本の国の貢献していくあるべき姿。一国平和主義ではなく、世界民族のために命を捧げていくぐらいの気持ちをもって世界に貢献する。それが我々が世界から感謝されるという事になる。それがアインシュタイン師の言っていた言葉ではないかと思うわけでございます。

「天命に生き、運命に挑戦し、使命に燃え、宿命に感謝する」という言葉できょうは終わらせていただきます。

○司会

藤岡弘、先生、お時間も忘れて熱い熱いお話、大変ありがとうございます。皆様、改めて大きな大きな拍手をお願いいたします。

大変すばらしいお話をお聞かせいただき、身の引き締まる思いでございます。本日、お集まりの皆様、日本人の心を取り戻そうと一人一人が私利私欲を捨て、全人類の未来のために愛を持って、すばらしい国日本の建設のために、そして江戸川区のために共に頑張ろうではありませんか。（拍手）

ここで、特別ゲストのエチオピア駐日特命全権大使をご紹介申し上げます。

○エチオピア駐日大使（通訳・津田）

皆様こんにちは。お久しぶりです。お話をさせていただく前に、きょう一緒に来させていただきました大使館のスタッフ、外交官をご紹介させていただきます。

彼は、ゲタッチョハイレメコネンと申しまして、主に文化、観光、スポーツ、そのような分野を担当させていただきます。ミスターゲタッチョ、ピカッチョではありません。よろしく願います。

藤岡様のすばらしい情熱的なお話の後に、私がお話をさせていただくことがいかに難しいかということをおわかりいただきたいと思えます。また、いただいたお時間が三分ということですので、この時間に何をどうお話していいか、まだ混乱をしている状態です。

先ほど藤岡様から、武士道、サムライの精神という話をいただきましたけれども、実はエチオピア人は武士道、また日本人の心、そういうものに対して大変強い関心を持っております。特に、私どもの首相、メレス首相ですけれども、実はこの十月に来日いたしました。首相も日本人の心、武士道に深い関心を持っております。

もちろん武士道というのは他に対してのかかわり、他に対しての思いやりというものだというふうに伺いましたけれども、私どももサムライ、武士道こそが、日本人社会に良い意味での大きな影響を与えているのではないかと理解しております。

教育ですが、日本の高い教育水準は日本の社会を形成する上で大変に大切なものであります。

残念ながら、エチオピアでは教育に対して、日本ほど高い意識を持ってきませんでした。基本的には教育は大切なものであるという認識はありますけれども、それが形になってあらわれていない。教育としてはまだ厳しい状態にあるということが言えると思います。

藤岡さんがさっきおっしゃいましたように、エチオピアは今、大変な食糧難に見舞われております。大変厳しい状況で、一千二百万人の人たちがこのような食糧難に見舞われているということです。

この食糧難の一番の原因というのはやはり貧困です。この貧困が、十分な教育が与えられないということにつながっております。残念ながら、これはサイクルのようなんですけれども、エチオピアは十年ごとに大変厳しい干ばつに見舞われて参りました。

ところが、近年の異常気象の影響だと思われましても、かつては大体十年ごとに干ばつに襲われてきたものが、近年では五年ごと、またその間隔が短くなりまして、三年サイクルで大変厳しい状況で干ばつが襲ってきます。

私どもは武士道、サムライ精神のようなものは十分持っているんですけれども、三年ごとぐらいに襲ってくる干ばつ、そして貧困、このような二つの大きな厳しい状況でございます。

今、エチオピア政府は、この二つの大きな原因に対して立ち向かうとしております。一つは教育にしっかりと力を入れていく。そしてまた、食糧難に対して、エチオピアのみならず、近隣のアフリカの国々が力を合わせて取り組んでいこうというようなことで取り組みを始めております。

この食糧難に立ち向かうために、日本を初め、また先進国諸国の大きな支えが必要になってまいります。

このようなことで、前回から江戸川の皆様には大きくエチオピアをご支援いただいておりますけれども、そういう中で、また今宵、この江戸川に來させていただきました。先ほど、藤岡さんが述べられていらしたように、またきょうのオーガナイザーでいらっしゃる野木先生が声を大にしてエチオピアをご支援いただいているように、皆様のご支援が本当に私どもに今大変必要なことでございます。

どうか皆様方にぜひとも今後エチオピアに関わっていただきたい。その上で三つのことをお願いしたいと思います。

一つはNGOとしてエチオピアに関わっていただきたい。もしくはエチオピアにおいて、エチオピアのビジネス、投

資、このような面でエチオピアにぜひ関わっていただきたい。

また、直接NGOとか、ビジネスということではなくて、ぜひともエチオピアにおいていただきたい。エチオピアの人々を知っていただきたいと思います。エチオピアは非常に歴史のある古い国でございます。また文明の発祥の地、人類の発祥の地と言われている国です。そのような国、エチオピアにぜひおいでいただいて、人々のスピリット、精神をぜひ直に肌で感じていただきたいと思います。

きょうはこの辺でお話を終わりたいと思います。ぜひエチオピアにおいていただき、エチオピアで皆様とまたお会いしたいと思います。

とりもどそう 日本人の心を!

講 演 会

「武士道精神」を熱く語る



現代に生きるサムライ

1 部 ◆特別講演「武士道精神」を語る

講師 藤岡 弘、氏 俳優・武道家

◆友情出演 野村流古典音楽保存会 大城 貞吉

たまぐすく きらせん
玉城流 煌扇会 新城 久美

◆エチオピア旱魃救済寄金

2 部 懇親会 19:45~21:00

日 時 平成 15 年 12 月 15 日(月) 17:30 開場/18:00 開演

会 場 タワーホール船堀 江戸川区船堀 4-1-1 TEL5676-2211

主 催 武徳(武士道)振興協議会

後 援 国際スポーツ文化交流協会、全人教育武徳学舎、將山会、江戸川愛郷会

プログラム

1部 講演会

総司会進行／野木 將典 国土館大学教授

開 会

主催者挨拶

野木 將典

友情出演「琉球の心を舞う！」

野村流古典音楽保存会 大城 貞吉

たまぐすく きらせん
玉城流 煌扇会 新城 久美

琉球箏曲保存会 神谷 ケイ子

代表世話人挨拶

小久保 晴行 江戸川区文化会会長

中津川 博郷 衆議院議員

前島 信次郎 東京都議会議員

とりもどそう日本人の心を 白子 英城 (株)スウィックプラス代表取締役会長

ビデオ上映

特別講演「武士道精神」を語る 藤岡 弘、氏

エチオピア旱魃救済

エチオピア駐日特命全権大使 コアング・トゥトゥラム・ドゥング

閉 会

深 作 勇 浦安市議会議員

2部 懇親会

司 会／駒井美江子

開 会

梅 澤 勇 (株)浦安石勘代表取締役

挨 拶

久保田 光信 江戸川ロータリークラブ会長

初 鹿 明 博 東京都議会議員

海外(エチオピア)帰国報告

藤岡 弘、氏

乾 杯

田 口 浩 (株)新日本不動産鑑定所代表取締役

日本文化のふるさと

大城 貞吉

沖縄の文化紹介 新城 久美

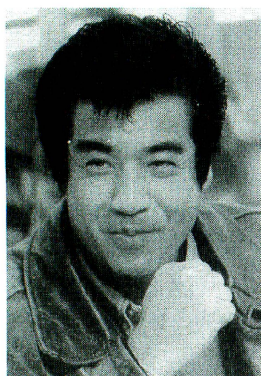
チャリティーオークション

藤山 辰次 エチオピア国営航空日本地区支社長

閉 会

プロフィール紹介

藤岡 弘、氏 俳優・武道家



藤岡さんは、1965年に松竹映画で映画俳優としてデビューされました。何本かの主演後「仮面ライダー」で一躍注目を浴び、その後「特捜最前線」やNHK大河ドラマ、朝の連続テレビ小説「あすか」など数多くのテレビドラマや、「日本沈没」「大空のサムライ」「野獣死すべし」等多くの日本映画で主演され、人気を博しています。

なお、現在はテレビ朝日系、スイスぺ!「藤岡弘、探検シリーズ」で隊長をつとめ、世界中の秘境の地を旅し、挑戦し続ける事、決して諦めない事などのメッセージを日本中に発信しています。

また、アメリカの俳優協会であるアクトーズギルド・ユニオンに所属しており、ハリウッド映画「SF ソードキル」「K2」等で主役を演じ、「香港・東京特捜刑事」など、国際俳優としても知られています。

また、ボランティアの活動でも知られ、特に数十年前より民間ボランティアの理事も務め、メンバーと共に世界各地の難民の救済の為、紛争地等での救援活動を行っています。訪れた国は、実に数十カ国を超えています。

そして、武道家としても知られ空手、柔道、刀道、抜刀道等、あらゆる武道に精通しています。昨年11月8日には、伊勢神宮にて奉納演武を行い、また、4冊目の著書「実践・五輪書 武道を通して学んだ宮本武蔵」も出版されました。このように、武道家として、国際俳優として、また、ボランティアの活動でも広く活躍されています。

スタッフ

大会委員長

野木 將典 武徳(武士道)振興協議会代表

実行委員長

柴崎 利夫

副委員長

鈴木 康隆

代表世話人

小久保晴行 (江戸川区文化会会長)

藤井 富雄 (東京都議会議員)

中津川博郷 (衆議院議員)

前島信次郎 (東京都議会議員)

久保田光信 (江戸川ロータリークラブ会長)

世話人

田口 浩 (㈱新日本不動産鑑定所代表取締役)

深作 勇 (浦安市議会議員)

梅澤 勇 (㈱浦安石勘代表取締役)

柴崎 利夫 (利幸運輸倉庫(有)代表取締役)

白子 英城 (㈱スウィックプラス代表取締役会長)

野木 將典 (国士館大学教授)

御協賛ありがとうございました(順不同)

山本 和夫

高橋 昭彌

後関 和之

岡本 紀雄

市川 實

石井 智恵子

高橋 宏明

高見沢 美代子

矢野 忠男

川村 保雄

岩倉 弘毅

西野 千鶴

飯野 弘

松井 宣彦

中山 直幹

駒井 美江子

掛川 善弘

田中 静子

平山 善章

武藤 昭勝

秋山 敏郎

金子 正司

大竹 健司

大塚 精一

松田 忠男

坂井 正明

大原 信秀

高山 幸子

赤石 滋

小川 益男

柴崎 笑子

中村 太宣

高橋 政代

鈴木 康隆

矢野 一昌

佐伯 健三

星野 ときえ

坪内 ゆきゑ

近藤 建

牧野 誠一

木薮 怜子

引地 英雄

大八 木論

江原 芳子

荒井 知久